

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>会社理念のほかに『和楽』というホーム理念があり、住み慣れた環境のもとで和やかに楽しく暮らしていただけるよう支援させて頂いています。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員会議、カンファレンス時に理念に基づき支援が実践されているかを確認しながら職員間で理念の実践に取り組んでいます。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議でご家族や地域の方に理念の説明は行っている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会へ入会しており挨拶は出来ているが、気軽に立ち寄っていただくまでは出来ていないように思います。</p>	○	<p>建物の構造的に学生会館を改装した5階建てのビルの2階にある為、気軽に立ち寄るには抵抗があるようなので気軽に立ち寄れるような取り組みを考えていきたい</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の一員として町内会に入会し町内の行事や地域活動へ積極的に参加し地域の方と交流を深める努力はしている。</p>	○	<p>今年度は町内のゴミ拾い、運動会、夏祭りなどに参加させて頂き地域の皆さんと交流を深めています。今後も積極的に町内の活動に参加していきたいと思います。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域運営推進会議を通して簡単な認知症講座などを開いた。</p>	○	<p>地域運営推進会議などを通して地域の皆様に貢献できるよう話し合いを持ちたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>部長、管理者、リーダー会議を毎月行い質の確保・向上に向けた話し合いは行っている。</p>	○	もう少し、具体的に取組みたい
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議ではホームの活動内容、取り組みなどを報告し出席者からのご意見、ご要望などを真摯に受け止めサービスの向上にいかしている。</p>	○	今後もご家族、地域の皆さんのご意見をもとにサービスの向上に繋げて行きたい
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>事業所として市の担当者と連絡、報告、相談などおこなっている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>入居された際に預貯金がある方がおり事業所としては本人と市と成年後見制度を含め協議した結果、社会福祉協議会の金銭管理サービス活用することとなった。</p>	○	権利擁護に関する制度など外部研修を通して学ぶ機会をつくりたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>昨年度から、抑制廃止委員会を発足し身体拘束・虐待ゼロにむけた勉強会や研修を委員会が中心となり行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、利用契約書、重要事項説明書など一通り説明を行い疑問点や不明な点はできるだけ解りやすく説明し納得して頂いています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会へ利用者の方も出席していただき、意見や感想をお話する機会を設けている。苦情委員会があり利用者からの苦情にすぐ対応できる体制をつくっている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	隔月発行のあじさい便りがあり、ホームでの出来事、行事報告そして個々に職員が実筆でホームでの暮らしぶりなどを添えてご家族へ郵送しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会にご家族も出席しており、ご意見、ご要望などを頂きサービスに反映できるよう会議や委員会等で改善にむけた話し合いを行っている。	○	現在、諸々の事情により家族会の発足に至っていませんが今後検討していきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議、カンファレンスなど職員からの提案、苦情、悩み、質問等を話し合える機会を設け職員の意見を管理者会議などで報告しているがそれが反映されているかは疑問である。中には反映されていないと言う職員もいる。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員間の連絡体制は出来ており柔軟な対応が出来るようになっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	代表は管理者、職員の福利厚生など待遇改善に向けた努力を行い、離職を減らし利用者が安心して過ごせる環境づくりに配慮している。	○	若い職員の離職率が高いため何らかの方策を考えたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者や職員への研修参加を業務の一環として勧めているが、業務の一環としての研修参加は人材不足からなかなか出来てはいない。自主的に研修会への参加を職員に促してはいる。会社経費で受けれる体制はできている</p>	<p>○</p> <p>計画的に、研修参加を進めていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区の在宅ケア連絡会、管理者会議などへ出席しネットワークづくりや連携は出来ていると思う。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>不定期ではあるが親睦会が行われたり、労基に則り有給休暇の計画的な付与などストレス軽減に向けた環境作りに取り組んでいる。しかしそれがストレス軽減に結びついているか難しいところである。</p>	<p>○</p> <p>職員の不平、不満はつきものです。それを冷静に判断、分析しよりよい職場作りに繋げて行きたいと考えます。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の得意分野を活かせるよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>今年度、下期より能力にあわせた待遇改善を考えています。職員のやる気を引き出せるような取り組みを今後も考えていきます。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人に納得して利用して頂くために不安なことやわからない事を傾聴し受け止めながら解りやすく説明することを心掛けている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族からの要望、心配事などよく聴き受け止め信頼関係を築けるよう努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や、ご家族のお話から状況を総合的に判断し対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	できるだけ家族だけでなく本人にも見学に来ていただき雰囲気を感じていただくようにしています。病院から来られたケースでは、管理者と職員が何度も足を運び希望や心配事はないかお話をさせていただき馴染みの関係づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一日の生活で午前、午後に個別対応の時間をも設けて職員が本人と一緒に散歩、買物、趣味などして過ごし学んだり支えあい楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人から要望があり職員で対応できない時などはご家族に連絡し対応して頂き本人を支えていく関係を築いている。(例えば美容室、提携医以外の受診、買物など)		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	年数回は行事にご家族にも参加して頂き本人と共に過ごす時間が多くもてるよう支援している。身寄りのない方やご家族と疎遠関係の方には職員が寂しい思いをしないような支援を心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人や場所へ外出支援は積極的に行っている。美容室、友人宅、スーパーなど他には手紙や電話での交流もされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	生活歴、性格、病気などから利用者同士折り合いにつかないことが多いが孤立しないように個々の関係づくりに気を付けている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	本人の転居先に時折訪問したり、ご家族のお店から食材の購入を継続している。	○	退去された方のご家族が今年のクリスマス会で紙芝居をボランティアで披露していただき、退去の際に今年も紙芝居をお願いできないかお話ししたところ、快く引き受けてくださりお願いしていこうと考えています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との関わりの中から希望や意向の把握に努め、困難な方も生活歴や普段のかかりから出来ること出来ない事を把握し常に本人主体に検討している。	○	同時に職員のケアの質の向上にむけた意識改革も必要だと思います。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個々の個人ファイルのフェイスシートや診療提供書などから生活歴、これまでの経緯を把握することができる。利用者との関わりの中から新たな情報があれば記入するようにしている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の生活リズムを把握する為にチェック表(バイタル・食分量・水分量・排泄・処置)を活用し心身状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	それぞれ担当制をとっており、担当職員が中心となり介護計画作成まで行い、カンファレンスにて関係者(本人、ご家族、介護支援専門員、管理者、担当職員)が集まりその『人らしさを出す為に何が出切るか』を話し合い職員の意見を参考にしながら介護計画に取り組んでいる。	○	関係者の中には本人、ご家族が出席して頂けないこともあり、そのような時本人の意向や願いを把握出来るよう常に利用者の視点に立って考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間にモニタリング・評価を常に意識しADL状況や入退院など何か変化があれば都度見直しを行い関係者を集め現状に即した計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践結果はチェック表方式にしており、評価の際に活用している。	○	チェック方式の為、実践結果の記録の記入が徹底されてない為、記入されている時とされていない時とあり適切な評価に繋がらないので、今後は記録への記入を徹底したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所としての多機能的な体制は整っていない	○	医療連携加算、ターミナルケアなど検討したい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内の運動会、夏祭り、盆踊りへ参加し楽しんでいる。	○	地域の方にボランティアの呼びかけを回覧版などを通じて行いたい。(趣味、話し相手、将棋・囲碁など)
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容を活用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	出来ていない	○	今後地域運営推進委員会などを通じて協議したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ホームへの提携往診医のほかに専門医としてのかかりつけ医との関係を築き利用者の皆様に適切な医療が受けられるよう支援できている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ときわ病院(認知症専門外来)と提携しており、相談や助言をいただける体制は整っている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員との連携は取れていない。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>往診医や専門のかかりつけ医又医療相談員との協働のにも連携体制はできている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合、本人も含め、ご家族、かかりつけ医、職員と今後の方針を話し合うようにしています。運営の方針上終末期の対応が出来ないのですが、もしそういった場合でもかかりつけ医と家族と話し合い本人が安心出来るよう支援しています。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>取り組んでいる。</p>	○	<p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるためには職員の質を上げていかなければなかなか対応が出来ないように思います。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>転居先の担当ケアマネジャーや相談員に事前に情報を伝え本人が安心して転居出来るよう努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>理念にもありますように皆さんのプライバシーを守るために尊重を心掛けています。記録物やチェック表など置き場所を決めており他の利用者に見られないようにしている。第三者への情報提供の同意を頂いている。</p>	○	<p>職員が体調を崩したり、ストレスが溜まってくると心ない言葉がけが多くなるように思います。そのようなことがないよう日頃から職員の体調管理に配慮していきたい。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定ができる方には意思確認を必ずするようにしている。ホームに外国国籍の方がいて自国の言葉をボード版にして意思の確認をしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々の生活リズムを尊重し、個別に希望に添ってできる限り対応している。入浴日を固定しない(希望者のみ)、買物、趣味など</p>	○	<p>限られた職員数の中での対応となる為希望に添えない日もある。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者の数名は行きつけの美容室へ行かれ、ほかは訪問理美容を利用している。外出時には化粧される方もいる。洋服は本人と一緒に選ぶようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	買物、料理の下ごしらえ(もやしのめとり、皮むきなど)や後片付け、食器洗い・拭きなど一緒にしている。	○	味付けや、調理にも一緒に参加して頂けるような取り組みも考えたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品に関しては本人の状況を踏まえで個々に可能な限り対応している。 喫煙は吸われない方のために喫煙所を設けています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一日の排泄パターンをチェック表もとに把握し脱おむつに向けたケアを介護計画に盛り込みながら支援している。夜間ポータブルトイレや尿器、おむつ交換の方も日中はできるだけトイレでの排泄を促し、誘導している。	○	トイレの構造上立位が取れない方の排泄介助が難しい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は基本的には週2回の固定ですが、毎日入りたいと言う方にも柔軟に対応しています。(午前と夜は対応できていません)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	寝具(リネン類)の定期的な交換など気持ちよく眠れるような支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事が得意な方は「それは私の仕事よ」とばかりに率先して食器洗い、拭き掃除などやってらっしゃいます。花や野菜(プランター)の手入れをやっていただくなど、皆さんの得意分野の把握に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の金銭管理の能力引き出すための支援は出来ています。例えばご家族が金銭管理されている方はご家族にお願いして本人自ら買物をしたり出来るよういからか本人に渡して頂いております。中には常に財布にお金がないと不安な方がおり毎月、お小遣いとしてお渡ししています。金銭管理が出来ない方は本人の同意のもとホーム管理です。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩は日課になっている。希望時外出できるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月一回の外出行事があり、普段行けないところへ出かける支援は行っている。(花見、小樽運河散策、山菜取り、など)ご家族も同行されることもある。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々の力に応じて電話や手紙の支援は出来ています。基本的に電話の使用は自由ですので自ら電話を使用する方や電話をかけることが困難な方にはプライバシーに配慮し職員が取り次いでいます。ほかに利用者の知人やご家族へ年賀状、暑中見舞いなど出す支援も行っています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	原則、訪問時間は決めていませんが夜間帯は事前に連絡をいただくようにしています。ご家族や友人の方が気軽に来れるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「抑制廃止委員会」を設け身体拘束ゼロに向け職員が一丸となって取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯のみ防犯の為施錠している。建物の構造上エレベーターホールが出入口と なっている為、玄関を探される方もいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	日中は定時の所在確認をさりげない言葉がけで行っている。夜間帯は定時の放室 を行い所在や様子を把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	刃物関係は包丁以外は事務所管理、薬品、洗剤等は鍵のかかる場所で保管してい ます。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に 応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止に向けた話し合い毎日の申し送り事に確認しあうようにしている。ちょっと した事でもひやとしたことやはったしたことはひやりはっとして報告書を提出して 事故防止につなげています。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	開設以来3度の救命講習(消防局主催)を行い急変や事故に備えてはいるが、開催 が不定期であり、職員の入れ替わりもあり、職員全員が訓練を受けているわけでは ない。防災・緊急マニュアルあり	○	内部研修委員会もあり職員全員か応急手当に関しての技術を身に付け るために定期的に勉強会を行い、年1回は救命講習を受けるようにした い。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている。	年2回の自主避難訓練、年1回の当ビル合同の避難訓練を実施している。様々な 場面を想定して訓練を行い防災委員会が中心となり検証している。利用者の皆さん が参加することにより日頃から防災の意識をもっといただくようにしている。年1回 の合同避難訓練では消防署の方に実際に消火器の使い方を教えていただき、利用 者・職員も消火器を使って模擬体験をしている。防災・緊急マニュアルあり	○	地域運営推進会議や地域の行事に参加し地域の皆様に災害時の協力を お願いしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族へはご本人が生活する上でハード面(建物の構造)から予想されるリスクについては説明している。	○	事故など問題が発生した場合ご家族への連絡が遅れることもある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々の体調変化は記録されており、申し送りの際に必ず報告し管理者が中心となり往診医と連携を取りながら柔軟に対応できている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人情報ファイルへ個々の薬剤情報がファイルされおりいつでも確認できるようにしている。薬の変更の際には受診・往診記録に記載し管理者からも報告がある。	○	誤薬防止に向けて引き続き声だし確認、視認確認、飲み込み確認を行っていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	チェック表をもとに一人一人の排泄パターンを把握し便秘予防のため体操や散歩を日課としている。	○	現在、便秘がちな方に牛乳を飲んでいただいたり、バナナを食べていただいているが食生活の改善も含め、食物繊維、乳製品の摂取方法やお腹のマッサージなど自然な排便促進のための取り組みをしていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	2ヶ月に一度の訪問歯科医の指導のもと一人一人に応じた口腔ケアをしている。	○	口腔ケアの重要性を認識し肺炎予防や食事を美味しくいただくための取り組みを行っていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日食事量、水分量はチェックを行い摂取状況を把握している。あまり食が進まない時には本人の好きな食べ物や飲物をおだしたり、嚥下機能が低下している方にはトロミ食や刻み食など柔軟な対応を心掛けている。	○	食事制限の方もおり摂取カロリーには気をつけていますが減塩、油控えめ、量の増減でしか対応できていないため摂取カロリー計算も含め適切な栄養摂取のための取り組みを強化していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会が中心となりマニュアルを作成し感染予防に努めている。来訪者にも消毒などの協力を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理用具の衛生管理は出来ている。毎月1回は委員会が中心となり食中毒予防などについて話し合いを持ち職員が共通の認識のもと調理や消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の構造上マンションのように感じグループホームには観えないが玄関先に花を飾ったりプランターで野菜を植えたりと工夫はしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を採り入れた飾り付けや花々をおき居心地のよい空間づくりに取り組んでいる。散歩の際に利用者の方と一緒に摘み取った花やクルミなども飾り付けている。ソファを置きくつろげる空間にも配慮している。	○	限られた共有スペースでの心地良い空間造りは苦勞していますが、我々の価値観を押し付けずに、利用者、ご家族、地域の方の意見を取り入れながら取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間でくつろがれる際に皆さん座る位置は決まっています、それぞれの空間は確保できているように思います。	○	しかし、共有スペースが狭いため一人になれる空間はなかなか出来ないのではないかと思います。その代わりに、お互いに密着感があり会話も弾む時もある。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際に、ご本人とご家族と相談のうえ、本人が使い慣れた物を持ち込んで頂いています。そして本人が使いやすく安心して過ごしていただく為にお部屋の配置は本人と相談しながら職員と一緒にしています。	○	一人一人のADLの状況を常に把握し本人にとって安心して暮らしやすい環境造りに配慮していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度計をを設置し温度調節はされている。特に湿度には注意を払っている(冬季の乾燥時には加湿器使用、夏場はこまめに換気をしている)。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物の構造上身体機能を活かした環境造りは出来ていないが安全に生活が出来る様に手すり、動線に物を置かないなどの工夫をしている。	○	杖、車椅子使用の利用者もいるので事故が起きないように安全には配慮したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各お部屋のドアに個別表示やトイレ表示、お風呂表示をし混乱を防いでいる。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にプランターを設置し花や野菜を植え、利用者の皆さんは水やりや収穫など楽しんでいる		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者の方が率先して地域との繋がりをもつ為に散歩の際、近隣の公園や道路上のゴミ拾いをされるようになり、事業所として地域運営推進会議等で利用者の活動を報告し地域密着に取り組んでいる。